

●媽祖・瑤池金母・無生老母など女神信仰の伝承や、扶鸞宣化から複雑な齋醮儀礼まで多様に発展をとげた祭祀儀礼を分析。古来の礼楽文化と神秘思想の関わりを探る。

# 漢人社会の礼楽文化と宗教

神々の足音

鄭正浩 著

……このように、道家思想における「道」——普遍的真理——が、『呂氏春秋』では律呂の原理として表されているのである。本書は、この普遍的な真理に通ずる音楽の本質について考察することを出発点とし、そこから展開される儒家的・道家的音楽観が、漢人社会にどのような礼楽文化をもたらし、どのような祭祀儀礼を形成させたかを見るものである。

従来、中国古代の儀礼文化についての研究は古典に依拠するものが多く、しかも儒家思想と関連づけて儀礼の詳細やその思想的な意義を追究するものが殆どであった。本研究は「礼楽文化と宗教」を主題とし、音楽と儀礼の起源を明らかにするとともに、両者の融合によって発生した礼楽文化が、神秘思想や宗教とどのように関わりながら、漢人社会で展開してきたかについて見る。また、古来の自然神信仰や媽祖・瑤池金母・無生老母を初めとする女神信仰の考察を通じ、人々が自然からどのような啓示を受け、母なる女神にどのようにして救いを求めていったかを伝承と祭祀儀礼の考察によって解明する。

一方、近世以来、儒教・道教・仏教の教義を受け入れながら発展してきた民間宗教において、扶鸞宣化から複雑な齋醮儀礼まで、祭祀儀礼は様々な発展・変容を遂げたが、これらもまた音楽・芸能・演劇と深く関わり、本土中国とは異なった環境にある台湾の漢人社会や東南アジアの華人社会において受け継がれていることを明らかにした。研究方法については多くをフィールドワークに負っており、本研究はその成果でもある。

本書は、先行する内外の諸研究から多大な恩恵を被りながらも、古典的解釈に立つ従来の研究とは異なった視点から礼楽文化を見直そうとしたものであり、漢人世界周縁部における民間宗教を主たる対象とした調査・研鑽の所産である。……

## 目次

### 序言

第一章 音楽と儀礼の起源とその思想的展開

第二章 道家的音楽思想の展開  
——嵇康の音楽思想を中心として

附篇 嵇康とハンスリック——比較音楽思想の一試論

第三章 音楽・戯曲の神と漢人社会の祭祀儀礼

第四章 降神の儀と神々の託宣

第五章 女神の誕生と母神信仰への展開

第六章 水神信仰と水の聖と俗

第七章 民俗宗教における異界観

第八章 神々のヒエラルキーと生活空間の守護神

### 結語

あとがき

### 索引

### 体裁

・A5判・上製・カバー  
・四四八頁

### 定価

・八四〇〇円  
(本体八〇〇〇円)

発行所 風響社

114-0014 東京都北区田端四一-四一九  
電話〇三(三八二八)九二四九  
http://www.fukyo.co.jp

税込み 八四〇〇円

部

注 文 書

流通センター  
取扱品

地方出版

発売 風響社 TEL: 03-3838-9249

鄭正浩 著

漢人社会の礼楽文化と宗教

——神々の足音

ISBN978-4-89489-137-1 C3014 ¥8000E

[お客様控え]

ご氏名  
ご住所

お電話

月 日